〔巻頭言〕

髙山　恵理子教授退任記念特集によせて

社会福祉学科長
丸山　桂

この度、上智大学社会福祉学科における長年の教育と研究に多大な貢献をされてきた髙山恵理子先生がご退職される運びとなりました。社会福祉学科は、髙山先生への敬意と感謝の気持ちを込めて『上智大学社会福祉学研究』第 49 号を髙山恵理子教授退職記念号として刊行することにいたしました。これまでのご尽力に深く感謝申し上げると共に、その功績を振り返りつつ、ここに感謝の意を表したいと思います。

髙山先生は、2005 年 4 月に上智大学総合人間科学部社会福祉学科助教授として着任され、2007 年 4 月より同准教授、2020 年 4 月より同教授として、本学で教鞭をとられてきました。2025 年 3 月末で定年退職を迎えられるまでの 20 年間、本学の教育と校務、研究に邁進されてきました。

髙山先生の研究テーマは医療福祉論で、特に病院を拠点とするソーシャルワーカーによる地域実践や、退院支援に関わるソーシャルワークの評価方法に関する研究の分野で大きな学術的な貢献を挙げられてきました。これらの研究は、地域医療支援病院のネットワーク構築や、医療ソーシャルワーカーの業務に医療政策が及ぼす影響など、現代の医療福祉における重要な課題に対する貴重な知見を提供しています。その功績は、一般社団法人日本保健医療社会福祉学会の代表理事（会長）を務められるなど、学会からも高く評価されています。

保健医療の領域において、ソーシャルワーカーの実践家として研究するというスタイルを確立した先駆者の一人であり、その経験をもとに、教育者としても、髙山先生は学部生、そして多くの社会人の大学院生に対し、深い知識と熱意をもって指導を行ってこられました。特に、社会人の大学院生に対しては、その仕事と学業が両立できるよう、研究指導を夜間に行うなど、まさに本学が教育精神に掲げる「他者のために、他者とともに（For Others, With Others）」を体現される教員の鏡のような方でした。

また、学部の演習では、医学部、歯学部、薬学部を擁する大学とチーム医療に関する IPE（多職種連携教育）を実践するなど、理論と実践を結び付けた、得難い実践経験を学生に提供してきました。

校務では、2022 年度に社会福祉学科長を務められたほか、社会福祉実習指導責任教員も複数回担当され、社会福祉士資格取得に関する様々な連絡調整業務も的確に進められてきました。いつ寝ていらっしゃるのだろうかと思うほどの多くの授業・校務を着実にこなしながら、その温かい人柄によって多くの学生や教職員が助けられました。髙山先生が「女神」と評されるのも、当然のことでしょう。

髙山先生のご退職は、社会福祉学科にとって大きな喪失です。しかし、私たちがその姿に近づくよう、一層努力しなければならないと襟を正す機会でもあります。

髙山先生、これまで本当にありがとうございました。どうぞお元気で、新たな人生のステージを謳歌されますようお祈り申し上げます。